

LEVEL

2

Web
Tadoku
Books

おうさま みみ
王様の耳は
ろ ば みみ
ロバの耳





朗読音声のダウンロード
Audio download

★^よ読む^{まえ}前に Before you read

《^{たどく}多^よ読^{かた}の読み方》

^{たどく}多読とは、とてもやさしい^{ほん}本から^{たの}楽しくたくさん^よ読んで^{にほん}日本語を^み身につけていく^{ほうほう}方法です。

^{つぎ}次の4つのルールを守って^{たの}楽しく^よ読みましょう。

1. やさしいレベルから^よ読む
2. 辞書^{じしょ}を引かないで^よ読む
3. わからないところは、とばして^よ読む
4. ^{すす}進まなくなったら、^{ほか}他の^{ほん}本を^よ読む



《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy 読 books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





むかしむかし、あるところに小さい
国がありました。

その国の王様は、いつも大きい冠を
かぶっています。

そして、みんなの話をよく聞きます。
みんなは、王様が好きでした。

でも、どうして王様は大きい冠を
かぶっているのでしょうか。



おうさま みみ
王様の耳は、ろば みみの耳だからです。

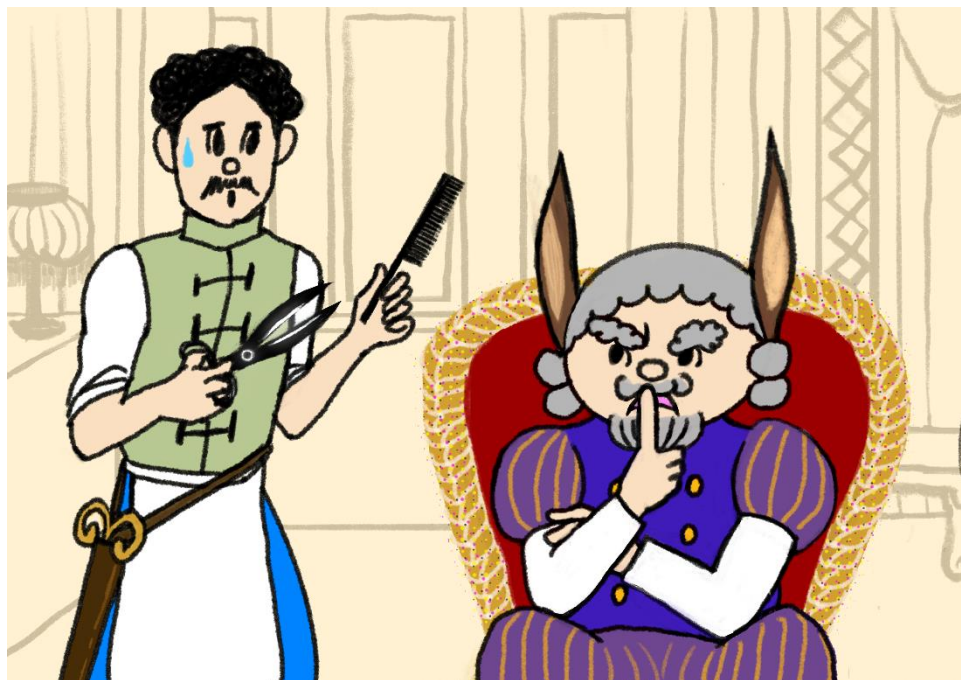
おうさま かな
王様は悲しいです。

「ああ、どうしてわたしの耳は みみ

ろば みみの耳なんだ？」

このことは秘密 ひみつでした。

だれも知 しりませんでした。



でも、一人^{ひとり}だけ知^しっていました。

おうさま ^{とこや} ^{とこや} ^{まいしゅう}

王様の床屋です。床屋は毎週、

おうさま ^{かみ} ^き

王様の髪を切ります。

おうさま ^{こわ} ^{かお} ^{とこや}

王様は、いつも怖い顔で床屋に

言^いいます。

「わたしの耳^{みみ}のことは秘密^{ひみつ}だ。

だれにも言^いってはいけない!」



とこや
床屋はだれにも言いませんでした。

でも、だれかに言いたいです。

とてもとても言いたいです。

—— ああ、王様おうさまの耳みみ！

あの大きい耳おおみみ！ ロバろばの耳みみ！

だれかに言いいたい——



ある日、床屋は、だれもない森へ
ひ　とこや　もり

行きました。

大きな穴を掘りました。そして、

穴に向かって、大きな声で言いました。

「王様の耳はロバの耳！」

王様の耳はロバの耳！

王様の耳はロバの耳！」

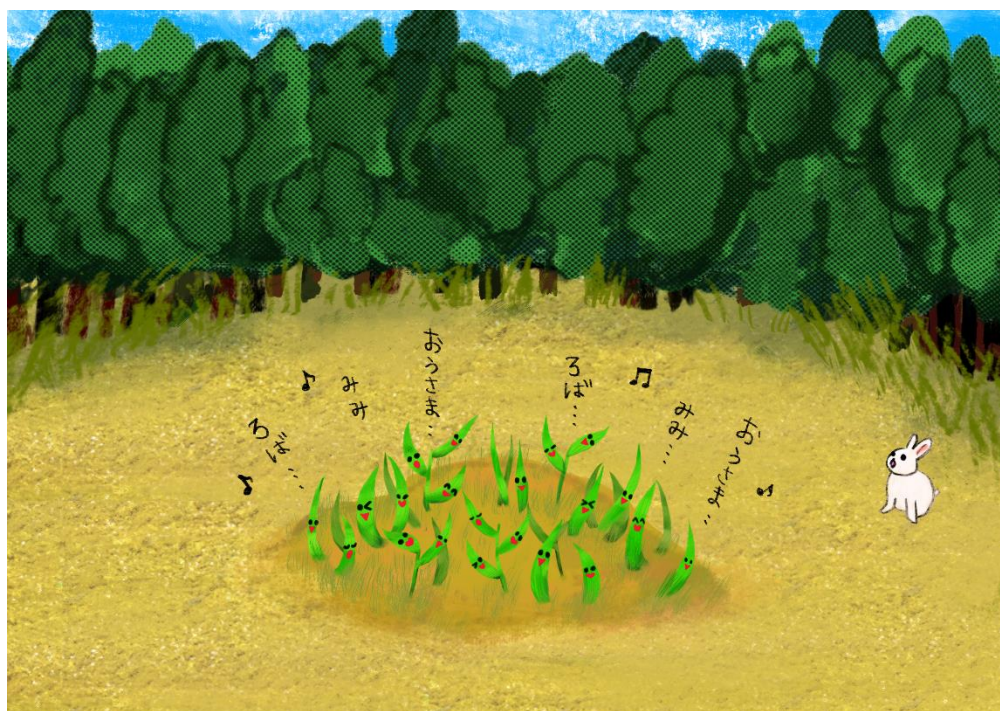


「ああ、いい気持ち！」
きも

床屋はにつこり笑いまして。
とこや わら

床屋は穴を埋めました。
とこや あな う

そして家に帰りました。
いえ かえ



つぎ ひ
次の日、穴から草が生えました。
なに き
何か聞こえます。

「...おうさま...みみ...ろは...♪」
き くさ うた
よく聞くと、草が歌っています。



その次の日、草は大きくなりました
つぎ ひ くさ おお

ました。

歌声も大きくなりました。
うたごえ おお

「王様の耳はロバの耳」
おうさま みみ ろば みみ

王様の耳はロバの耳」
おうさま みみ ろば みみ



こどもたちがその歌を聞きました。
 こどもたちは、楽しくなって、草と
 いっしょに歌います。

おうさま みみ ろば みみ
 「王様の耳はロバの耳」



おとなたちも歌います。
うた

「王様の耳はロバの耳」
おうさま みみ ろば みみ



ここはお城しろです。

とこや おうさま かみ き
床屋が王様の髪を切っています。

とき うた き
その時、歌が聞こえてきました。

おうさま みみ ろば みみ
「王様の耳はロバの耳〜♪」

おうさま みみ ろば みみ
「王様の耳はロバの耳〜♪」

おうさま とこや こわ かお い
王様は、床屋に怖い顔で言いま
した。

ひみつ はな
「わたしの秘密をみんなに話し
たのか？」



「いいえ、だれにも話しません。^{はな}

でも…、森の穴^{もりあな}に向かって言いま^い

した」

^{おうさま おも}
王様は思いました。

—— えっ、それだけで？

どうして、みんなが歌^{うた}っているん

だろう。不思議だ…^{ふしぎ}——



おうさま そとで
王様は外へ出ました。

みんなは王様を見て言いました。
おうさま み い

「あつ、ほんとうに王様の耳はロバ
おおさま みみ ろば

の耳みみですね。立派りっぱですね」

「だから、わたしたちの話はなしを

よく聞きいてくれるんですね」

—— えつ、だれもこの耳みみのことを

笑わらわない……

おうさま
王様はうれしくなりました。



おうさま
王様は、もう冠をかぶりません。
かんむり
それから、大きい耳で、
おお
みんなの話をよく聞きました。
はなし き

おうさま みみ ろ ば みみ
王様の耳はロバの耳

発行日：2025年5月15日

再話/監修：NPO多言語多読

挿絵：池田あきつ



NPO多言語多読

tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>